

# ∩の意味するところ



かくほうまさゆき

シンクタンク神奈川所長 角方正幸

機関誌名に使われている‘∩’は何と読みましたか？ これはその形からキャップ（帽子）と読むことが多く、集合記号での積集合を意味し、日本語では「交わり」です。2010年4月に発足した「シンクタンク神奈川」は、この記号の両側にある「神奈川力」と「大学力」の交わり、あるいは出会いの強化・振興を目指します。そこでこの思いを込め「神奈川力∩大学力」というタイトルで機関誌を創刊することにしました。

神奈川力とは、神奈川の地域における人材の豊富さや自然の豊かさ、洗練された都市の魅力、力強い産業、そしてこれまで重ねられてきた歴史や文化などさまざまなものを指しています。また、地域の力とは、現在持っている力とともに、それを育てる力も重要です。産業や文化とともに、最も、育て、育むべきは「人」ではないでしょうか。家庭、保育、小学校、中学校、高校、そして子どもたちを取り巻く地域社会のあり方は「育ち」にとって重要であり、神奈川県でもさまざまな施策を行ってきました。

さらに、大学という場もあります。これまで、大学は研究の場という視点から捉えられがちでしたが、社会を支える人材、職業人を養成する教育機関であるという側面も見のがすことができません。県内には74もの大学がキャンパスを持っています。それらの大学における人＝学生の育ちには地域の力が大きな役割を果たすはずですが、県や地域との連携についてはまだまだ進展と工夫の余地があります。そこで、本号では、そのために準備している「大学コンソーシアム神奈川構想」（仮称）について取り上げています。

また、神奈川県下74の大学には、1万人余りの大

学教員が存在し、神奈川は素晴らしい知的資源を有しているのです。シンクタンクが負っている政策研究のミッションを果たしていくためには県内外の大学やその人材との交流が不可欠ですが、特に、神奈川の大学力を生かし、その知的資源を生かすことが必要です。

そこで、大学力と神奈川力のインターフェイス（接続部分）に着目し、その相互作用によって双方を伸ばし高めていくことをシンクタンク神奈川の特徴とします。そのための情報発信ツールが機関誌「神奈川力∩大学力」です。

今、地方分権改革が叫ばれているにも拘らず、新しい政策や改革に取り組もうとすると必ず、財政が厳しく予算がない、取り組むだけの余力がない、人がいない、県民や市町村はもとより県庁内外からの理解が得られない、などのエクスキューズがまず出てきます。

しかし、そんなときこそ、こころざしを見失わず、さまざまな障害を克服するための知恵を出すことが求められているのです。知恵を集め、多くの人が関わり協力し合う体制をつくるためには、相互理解、その前提としての情報共有が欠かせません。この「神奈川力∩大学力」を、情報共有のための情報発信と情報の収集の媒体として大いに生かし、またその役割を果たしてもらいたいと思っています。

大学の情報を集め、また神奈川の政策や課題について知るためのツールとしてこの機関誌を活用していただくとともに、広く知恵と意見を求め、関連に議論を交わし、新しい発想を求め、時にはリスクテイクする勇気をもって、神奈川力を高める政策とそのための体制をつくっていきたいと思います。